

第6回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2019年8月5日 発行

2019年6月28日に「第6回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」をローズWAMにて開催しました。

今回も商店会で営業されている方や阪急茨木市駅周辺まちづくりに関心のある方など、総勢10名の方に参加いただきました。

今回の学集会では初めに、5月11日に実施した『JR茨木駅周辺まち歩き』等の開催報告と『最近の駅前広場の整備事例』の紹介を行い、参加者で共有しました。

続いて、『どんな駅前が良いか。(拠点の役割とつながり)』をテーマにワークショップを行いました。

また、前回に引き続き、アドバイザーとして近畿大学総合社会学部の久教授にご参加いただきました。

○ 最近の駅前広場の整備事例

今回のワークショップのテーマである、『どのような役割があれば駅前がまちの拠点になるのか』『中心市街地のうち、阪急茨木市駅周辺と中央公園等をどのようにつなげれば良いか』を考えるため、阪神尼崎駅北口駅前広場、JR・山陽明石駅南口のあかし市民広場、JR姫路駅北にぎわい交流広場、JR・近鉄天理駅東口駅前広場、JR岸辺駅の北大阪健康医療都市、近鉄郡山駅の駅周辺まちづくり基本計画の事例について、駅前整備の目的やコンセプト、整備後の様子や効果等の事例を共有しました。



明石駅：あかし市民広場
2階屋内広場でイベント実施



姫路駅：キャッスルガーデン
水辺空間が子供の遊び場



天理駅：パークサイドキッチン
地元食材を利用した料理を提供

○ まち歩き開催報告及び事例紹介について講評（久教授）

まち歩き参加者の感想に、JR側は新しいが、阪急側は老朽化しているという意見があった。古さを感じさせない工夫を考える必要がある。ショッピングモールの場合、一つの企業が全体をマネジメントしているが、商店街では、各個店の意見や事情があるため、全体のマネジメントが難しい。そのため、エリアマネジメントの考え方が必要である。常に話し合い、中身が老朽化しているように見えないようエリア全体のことを考え、続けていく工夫が必要である。市民会館建替えの事業者選定では、阪急茨木市駅とJR茨木駅にどうつなげるかが評価基準に挙げられている。設計についても、ワークショップを開催し、市民意見を反映するよう要項が作成されており皆さんにも参加していただきたい。中央公園側は、どのように阪急側とつなげるかを考えている。本地区も中央公園側とどうつなげるかを考えなければならない。

事例紹介にあったあかし市民広場は、観光協会が運営しており、市民広場であるが物産展が多い。これは観光協会と市民活動団体とのネットワークが少ないからである。良い空間を整備しても上手く活用できないともったいないので、誰がどう活用してくれますかと学集会では常に呼びかけている。広場を活用していただける方につなぐ必要がある。

最近では、駅前に大きな広場や公園の空間を整備することは、日本だけでなく、世界中で取り組まれている。駅前にゆったりとした快適な空間を整備し、都市の魅力を示すことで、イベントや活動が生まれ、市民には主体として賑わい作りに参加することを期待している。百貨店等では催事空間で物産系のイベントが多く催されているが、本来は、事を催す空間であり、駅前を催事空間と考えると賑わいが集客につながるのではないか。

本日、JR岸辺駅の健都が事例紹介された。健都はまち全体を「健康と医療」という大きなコンセプトで括っているのが強みである。岸辺はまち全体でコンセプトを出している。茨木はどうするのか考えたい。JR側と阪急側のコンセプトはどうするのか。市民会館や中央公園の中央ゾーンのコンセプトはどうするのか。上手くつなげれば茨木のまちをもっと面白くできるのではないか。

○ ワークショップ

【どんな駅が良いか】をテーマに「拠点（駅前）の役割」と「拠点のつながり（駅前と中央公園）」について2グループに分かれ意見交換を行いました。

最後は各グループの代表者に発表いただき、参加者の意見を全員で共有しました。

ワークショップで出た主な意見は以下の通りです。



拠点（駅前）の役割

- ・ 緑が多く、色々な活動が生まれるような人が集まる空間（芝生広場）。
- ・ 駅前の広場が起点となり、商店街や市民会館方面に人を導く。
- ・ 自分の活動を発表できる場所。（自分の活動を発表したい人は大勢いる）
- ・ 保育所、小児科、病児保育などの子育て支援
- ・ 多目的な活用ができる空間や子育て支援等を備えた商業の中心。
- ・ 魅力的な商業の立地。
- ・ 駅前通りを意識した駅の顔づくり、つながりが必要。
- ・ 川端康成の像を設置するなど茨木のシンボル空間。
- ・ 駅前居住。（茨木市の中心市街地は人気が高い）
- ・ 中核都市としての駅前づくり。

拠点のつながり（駅前と中央公園）

- ・ 駅と中央公園をつなぐルートは商店街と駅前通りの2つ。商店街は歩行者中心、駅前通りは歩行者と自転車中心。
- ・ 商店街を通れば雨の日でも神社近くまで通行でき、この利便性を活用できないか。
- ・ 中央通りを一方通行化し、自転車や歩行者空間を確保する。
- ・ オシャレなストリートにこそ、オシャレなカフェが出店する。現状の駅前通りはそのような通りになっていない。
- ・ 阪急茨木市駅⇔商店街⇔中央公園のつながりができれば、商店街にも人通りが戻ってきて、賑やかな店舗が出てくるのではないか。
- ・ 阪急茨木市駅に降り立った時に商店街が見えるような駅前になって欲しい。
- ・ 阪急茨木市駅前の再整備が中央公園までのつながりや連携のきっかけになれば良い。

○ まとめ（久教授より）

色々な意見が出たが、勝負は「誰がやるのか」。誰かが動けば色々なことが着実に実現できる。次回以降、「私はこんなことが出来る。私の友達はこんなことが出来る。」という動かせる人達が見えてくると実現できるのではないか。前向きな意見を持ち寄っていただければ前に進める。

今回は、自分や仲間で何かやってくれそうな方がいたら連れてきていただき、そういった前向きな意見も出してほしい。

○ アンケート結果

学集会後に駅前の拠点として必要な機能についてアンケートを行いました。

	必要な機能	理由
1位	賑わい (商業施設・交流施設)	駅前には賑わいが似合う、開かれたデザイン 茨木は元々商業で栄えたまち など
2位	憩い (休憩施設・緑地・芝生広場)	のんびりとした茨木のイメージが駅前にほしい、 市民が駅前へ集う理由になる など
3位	子育て支援 (保育施設・遊戯施設)	子育てがしやすい街として人が集まり始めている、 子供連れに気軽に利用してほしい、駅近は便利 など

上記以外では、医療機能や交通機能及び景観機能も必要というご意見がありました。また学集会に対するご意見も頂きましたので、いくつか紹介します。

- ・ 教育従事者や学生、子育て世代の女性の意見も聞きたい。
- ・ ワークショップを通じて、駅～中央公園までの広いエリアで「観る」「聴く」「食べる」など一日楽しめるエリアになればと思った。
- ・ 地元の方の「茨木らしさ」への思いを感じた。
- ・ 駅前広場整備が完成した時に、自分の意見がどこかに取り入れられたらうれしい。

次回の学集会は、日時及び場所が決まりしだいご案内させていただきます。

連絡先:茨木市 市街地新生課 担当:藤岡、三浦

TEL :072-620-1821 FAX :072-620-1730 mail:shigaichi@city.ibaraki.lg.jp